

○事業所名	児童発達支援 ななつまつトレイン 自己評価総括表		
○保護者評価実施期間	2026年1月27日		～ 2026年2月3日
○保護者評価有効回答数	21	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	2026年2月6日		～ 2026年2月6日
○従業者評価有効回答数	8	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月23日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づく支援の質と利用満足度の高さ	個別支援計画の作成・説明・同意、計画に沿った支援、活動プログラムの工夫、安心感・満足度の項目で高評価であった。職員間でも打合せや計画共有を行い、チーム支援を意識している。	計画作成時のアセスメントと職員間共有を継続し、本人支援・家族支援・移行支援の視点をさらに明確化して支援の質を高める。
2	安心して過ごせる環境整備と適切な職員配置	保護者から、スペース確保、清潔さ、構造化、職員配置に関する評価が高かった。職員側からも、子どもの人数に応じた支援体制や環境整備への意識が示されている。	安全で分かりやすい環境を維持しつつ、必要に応じて個別に落ち着ける空間の確保や設備面の改善を検討する。
3	保護者との信頼関係と丁寧な説明・情報共有	運営規程や支援内容の説明、日頃の情報共有、相談対応、共感的な支援について高い評価を得ている。自由記述でも、子どもが通所を楽しみにしているとの声がみられた。	日常のやり取りに加え、支援のねらいや成長の見立てを分かりやすく伝える機会を積み重ね、信頼関係をさらに強める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムや保護者・きょうだい交流の機会が十分に見えにくい	保護者評価では、家族支援プログラム、保護者同士の交流、きょうだい支援の項目で「わからない」「どちらともいえない」「いいえ」が比較的多かった。実施頻度や周知方法が十分でない可能性がある。	保護者ニーズを把握した上で、ミニ講座、相談会、交流の場など負担の少ない方法から段階的に実施し、案内方法も整理する。
2	非常時対応や訓練の周知が保護者に伝わりにくい	事故防止・感染症・防災等のマニュアルや訓練に関して、保護者評価で「わからない」が一定数みられた。実施はしていても、保護者に見える形で発信が不足していると考えられる。	マニュアルの説明、訓練実施の報告、写真や通信での発信など、保護者に伝わる形で安全対策を可視化する。
3	地域連携・就学移行・外部評価等に課題が残る	従業者評価では、第三者評価、就学時の情報共有、地域の児童発達支援センター等との連携に低評価がみられた。体制整備や実施機会にばらつきがあると考えられる。	関係機関との連携手順や記録様式を整え、就学移行支援や外部からの助言・評価を計画的に取り入れることで、支援の質向上につなげる。

事業所名		児童発達支援 ななつまつトレイン 事業者自己評価				公表日	2026年3月23日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			夏休みなどの長期休み時のプログラムの内容や支援時間を長くするなど改善し、子どもが出席率をあげたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1		職員配置数は概ね適切であるが、子どもの状態や活動内容に応じて、男性職員を含めた多様な職員配置があることで、支援の幅が広がると考えられる。今後、人材確保や配置の工夫について検討していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1		こどもが安心して気持ちを整えられるよう、クールダウンスペースや個別に過ごせる場所の確保について検討する。また、その使用目的や見守り方法を職員間で共有し、適切な支援につなげていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		モニタリングで、保護者と、話し合う機会を作っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		毎朝の打ち合わせや、週1回の打ち合わせ会を行い、意見を聞く機会を、設けている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4		第三者評価については、今後の検討課題とする。あわせて、園の教職員等による関係者評価や意見聴取を行い、自己評価だけで終わらせず、業務改善につなげる仕組みを整える。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		外部研修会を、知らせ参加を、呼びかけており、週1回、内部研修を行っている。週に1回、全職員による研修会(勉強会)が開催されている。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		保護者に写真や連絡帳で伝えている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		個人ファイルを、いつでも閲覧できるようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2		日々の行動観察は行っているが、標準化されたアセスメントツールの活用や記録様式の統一が十分ではない。今後は、チェックリスト等を活用し、適応行動の状況を客観的に把握して支援に反映していく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				

援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		大まかな活動の内容を立て、そこから様々な人が「こうした方が？ここはこうする」と意見を出して、プログラムを考えている点。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		朝に確認をする時間がある。準備などは、全員で行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		記録時間で、気づいたことや、困ったことなど、話している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	2		サービス担当者会議や関係機関との会議には、児童発達支援管理責任者や保育所等訪問支援の訪問員など、こどもの状況を理解している職員が参画している。今後も、会議の目的や内容に応じて、より適切な職員が参画できる体制を整えていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		保育との連携をとっている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			支援内容など口頭だけでなく、資料などを、閲覧できるようにする
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	5		現在、小学校や特別支援学校から要請があれば、支援内容等について情報共有を行う体制は整えているが、これまで直接の要請はない。園が就学先と連携を行っているため、事業所での支援内容やこどもの様子については園に伝えていく。今後は、保護者の同意を得ながら、必要に応じて就学先とも情報共有できる体制を整えていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイザーや助言等を受ける機会を設けているか。	2	5		地域の児童発達支援センター等との連携を深め、必要に応じて助言を受けられる体制を整えていく。あわせて、学期に1回程度、外部スーパーバイザーに来所していただき、支援内容の振り返りや職員への助言を受ける機会を設けることを検討していく。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	2		地域との交流が少ないので、今後検討していきたい。	

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4		家族支援プログラムや研修機会の提供は十分ではないため、今年度は家族支援の一環として、土曜日に保護者が参加しやすい機会を設ける予定である。あわせて、家庭での関わり方に役立つ情報提供にも取り組んでいく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	1	モニタリングで伺うことが多い。定期的ではなく、保護者から要望があった時や、こちら必要だと思った時に行っている。	モニタリング時の相談対応に加え、保護者が子育ての悩みや家庭での困りごとを相談しやすい体制を整える。必要に応じて、定期的な面談や相談希望の確認を行い、早期の支援につなげていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	7		父母の会の活動支援や保護者会、きょうだい同士の交流機会については、現在十分に実施できていない。保護者には就労している方も多いため、まずは保護者のニーズや参加しやすい方法を把握する必要がある。その上で、保護者同士で交流する機会や、きょうだい同士が交流できる機会の設定について、今後検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	1	こどもの発達状況や理解の仕方に応じて、言葉だけでなく、実物や写真、絵カード、身振りなどを用いながら、分かりやすい伝え方を心がけている。また、保護者に対しては、連絡帳や送迎時のやり取り、必要に応じた面談等を通して、こどもの様子や支援内容を伝えるよう努めている。	意思の疎通や情報伝達に関する配慮について、職員によって方法や意識に差がある可能性がある。今後は、こども一人ひとりに応じた伝え方や、保護者への情報共有の方法について職員間で確認し、より分かりやすく丁寧な伝達ができるよう改善していく必要がある。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	7		現在、地域住民を招待する行事等は実施していない。今後は、こどもや保護者の安心感、個人情報、安全面に配慮しながら、地域とのつながりを持てる機会について検討していく。
非常時等	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	園で実施している避難訓練に事業所のこどもや職員も一緒に参加し、災害時の避難経路や対応方法を確認している。日頃から園と連携し、緊急時に安全に避難できるよう取り組んでいる。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1		BCPの内容を職員間で確認する機会を設け、非常災害時の役割分担や対応手順を共有する。あわせて、園の避難訓練への参加を継続し、BCPに基づいた訓練や振り返りを行うことで、災害時に適切に対応できる体制を整える。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0		

の 対 応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	2		身体拘束に関する内容は計画に記載しているが、職員への周知が不十分であるため、判断基準や手続き、記録方法について職員間で共有していく。

	チェック項目	はい	どちらとも いえ	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19			1			
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20						
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19	1					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20						
適切な 支援 の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17			3			
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19						
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20						
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18				2		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20						
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	17	1			2		
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20						
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	3	2		4	保護者の参加しやすさや関心に差があることを踏まえ、連絡帳・掲示・SNS等で情報提供の方法を整理する。今後は、家庭で取り組みやすい内容や短時間で参加できるミニ講座等を検討し、家族支援の機会が分かりやすく伝わるよう周知を工夫する。	
	保護者へ の説明等	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	17	2		1		
16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。		17	3					
17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。		19	1					
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		3	6	3		8	保護者同士のきょうだい同士の交流機会については、「わからない」「どちらともいえない」「いいえ」が多く、実施状況の見えにくさや機会不足がうかがえる。	
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。		16	1			3		
20 こどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。		19				1		
21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。		18	2					
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。		19				1		
非常 時等 の 対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	1		6	非常時対応マニュアルや訓練については、「わからない」が一定数あり、周知方法に改善の余地がある。	契約時説明に加え、年度当初の文書配布や掲示、訓練実施後の報告等により、保護者への周知を強化する。	
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15				5	避難・救出等の訓練は実施しているが、保護者に十分伝わっていない可能性がある。	訓練実施日や内容を写真・通信・SNS等で可視化し、安全対策への理解を深められるようにする。
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19				1		

	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の様相等について説明がされていると思いますか。	19			1		
満足度	27	ごどもは安心感をもって通所していますか。	20					
	28	ごどもは通所を楽しみにしていますか。	19	1			「毎朝トレインに行きたいと言う」「トレインのない日も『今日トレイン?』と聞く」など、通所を楽しみにしているとの声があった。	今後も、安心して楽しく通える環境づくりと、一人ひとりに合った活動設定を継続していく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	19			1		